

第6回 山科区基本計画策定委員会 摘録

- 1 日 時 平成22年9月27日（月）午前10時～午前11時30分
- 2 場 所 山科区役所 2階 大会議室
- 3 出席者 織田座長，幸田副座長，太田委員，奥田委員，川嶋委員，河村委員，
小山委員（代理出席），佐治委員，澤田委員，朱委員，高山委員，谷川委員，
渡名喜委員，西委員，羽立委員，日比野委員，松本委員，本島委員，
森委員，山口好委員，山口幸秀委員
- 4 内 容 ○議事①「京都市基本計画第2次案」のパブリック・コメントについて
○議事②：新「山科区基本計画」のパブリック・コメントについて
○議事③：新「山科区基本計画」将来像のキャッチフレーズについて
○議事④：今後の取組について
- 5 説明（議事①，②，③，④）
○「京都市基本計画第2次案」のパブリック・コメント，新「山科区基本計画」
のパブリック・コメント，新「山科区基本計画」将来像のキャッチフレーズ，
今後の取組について，事務局から説明した。
- 6 承認事項
 - (1) 新「山科区基本計画」のパブリック・コメントについて
○ 平成22年7月1日から8月31日までの間に行ったパブリック・コメントで
は，意見回収箱の設置に加え，14箇所で行った出前パブコメを実施し，パブリック・
コメントと出前パブコメの意見と合わせると439件の意見があった。計画素
案の前半部分（計画全体，「はじめに」及び「山科区の将来像」）に係るパブリ
ック・コメント意見の反映内容について，基本的に全委員が了承した。次回の
策定委員会では，「京都市基本計画第2次案」との調整や「基本施策」や「基本
方針」など，市民にとって分かりにくい文章について，説明を加えるなど修正
するとともに，計画後半部分のパブリック・コメント意見の反映，更には達成
目標等，計画素案全体を修正した案を議論する。
○ 意見の85%を占める個別具体的な要望，課題については，10年間の計画に
含めるには細かすぎるものであることから，それらの意見をこの計画に記載す
ることは馴染まず，一部は計画に例示として掲載するが，基本的には計画とし
てではなく，進行管理の中で参考にしていくという考え方について，全委員が
了承した。
 - (2) 新「山科区基本計画」将来像のキャッチフレーズについて
○ パブリック・コメントと同じ期間に行ったキャッチフレーズの募集は，156
件の応募があった。キャッチフレーズの選定については，156件の全応募作
品の中から，事務局の一次審査で30件選び，その中から本日，委員が優秀な
作品を1人3点投票することで，全委員が了承した。その結果に基づき，次回
の策定委員会で最終的なキャッチフレーズを提案することとなった。

7 各委員からの意見要旨

(1) 「京都市基本計画第2次案」のパブリック・コメントについて

- 山科区の新たな計画と読み比べると、山科区にも盛り込むべき内容があり、市の計画の中から拾い上げて、連携するよう事務局で調整してはどうか。

(2) 新「山科区基本計画」のパブリック・コメントについて

- パブリック・コメントとして寄せられた意見を受けて「共汗」を「共汗・協働」と修正されることについては、妥当だと思う。
- 4ページの計画の構成を説明する図において、基本施策、基本方針などの違いが難しい。説明文が十分に整理されていないので、市民に分かりやすく整理されたい。また、1ページで「政策」という言葉が用いられているが、その表現も考えてほしい。
- 市の計画の策定作業の方が、山科区基本計画の策定作業よりもゆっくり進んでいるために、擦り合わせが難しいと思う。その中で、ワーク・ライフ・バランスを含めていくことについては、具体的には難しいかもしれないが、将来を見据えるためには非常に重要である。また、都市基盤の分野についての意見が多く、山科区からきちんと発信していくべきこととして、重点的に加えられたことは良かった。
- 地域の文化資源などについて写真を用いる場合には、いつ、どこで実施する行事なのかなど、情報を含めて記載されたい。山科区の全景の写真等も、山に囲まれた緑の豊かさを再確認できる。新旧の山科区の全景、地図を対比するなど、掲載資料についても工夫すれば、10年間生きる計画になるのではないか。
- 計画策定後にどのように計画内容を実行していくかという、行政、区民の行動計画が伴ってこないといけない。今後10年、高齢化、少子化がますます進んで、社会の基盤が変わってくる可能性を考えていくべきである。自治会代表者会議等と連携して今後取り組みたい。

(3) 新「山科区基本計画」将来像のキャッチフレーズについて

- キャッチフレーズを皆で考えようと提案したが、つくってどうするの？という答えが返ってきた。また、みんなで使っていくものなので、そうだ、そうしたい、そうありたい、と願えるような、自らの行動につながっていくようなものが望ましい。“お題目”みたいなキャッチフレーズが多い中、住み続けることが許されるような、誇りを持って生きることができるよう、色んな意味で生きることにつながるような視点が大切だ。
- キャッチフレーズについては、丸一日議論するのであれば複数案を議論することもあるかもしれないが、基本的には1案に絞って、次回、議論するほうがよいだろう。山科らしさ、口にして元気になれるようなものが理想だが、特色が出るほど反対意見も出るものなので、平均的な表現になりやすいという難しさもある。